

横浜市歴史博物館

NEWS 13
2001・9

東海道宿駅制度 400年記念 特集号

- ◆東海道宿駅制度400年記念展示 によせて
- ◆「戸塚宿紺屋友八西国旅日記」を読む
- ◆古代の道と横浜地域
- ◆中世の道と横浜地域
- ◆史跡散歩 旧保土ヶ谷宿周辺
- ◆＜常設展示室探検＞木道
- ◆収集・収蔵資料の紹介 [14] 大塚遺跡出土土器
- ◆ちよいとミュージアムショップたいむ
- ◆＜知ってますか？＞東海道ビデオ



東海道宿駅制度 四〇〇〇年記念展示によせて

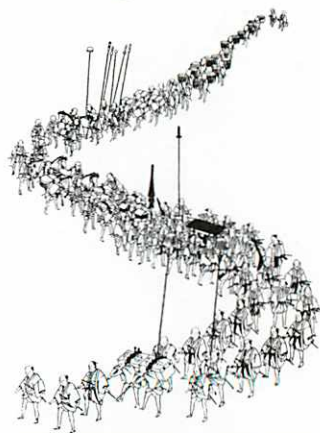
平成十三年（二〇〇一）は、東海道が成立した慶長六年（一六〇一）から数えて四〇〇周年という節目の年にあたります。江戸と京都を結ぶ東海道は、多くの人々や物資が往来し、政治・経済・文化に関わるさまざまな事柄が行き交った大動脈でした。また、東海道五十三次とよばれる五三の宿場は、それぞれの地域の政治・経済・文化の中核として、江戸や京都といった全国的な大都市と周辺の村々をつなぐ結節点でもあります。こうした東海道と宿場の存在は、江戸時代のみならず近代や現代にいたるまでの各地域のありように大きな影響を与えています。横浜地域にも神奈川宿・保土ヶ谷宿・戸塚宿という東海道の宿場がおかれ、さまざまな地域的ネットワークの中心として存在していました（なお、神奈川宿については平成八年三月五日～四月七日に開催した当館企画展図録『東海道と神奈川宿』にその一端を紹介しておりますので、ご参照下さい）。

また、東海道とその宿場の風景は、お土産や案内のため、さらには東海道の旅を想像して楽しむために、屏風・絵巻・浮世絵・双六などといったさまざまな絵

画の題材となりました。こうした絵画には、参勤交代の大名行列、書状を担いだ飛脚、荷物を積んだ馬と馬子、伊勢参りなどの参詣の旅人、あるいは大名や幕府の役人が宿泊する本陣、書状や荷物の運び手を交代する問屋場、庶民が宿泊する旅籠、一里塚や松並木・杉並木の木々が醸し出す木陰で休んだりする旅人といった、当時の道中・宿場の風景や風俗、名所や名物などが描かれており、往時の風情をしのぶことができます。

東海道宿駅制度四〇〇周年という節目の年に当たり、横浜歴史博物館では「東海道宿駅制度四〇〇年記念展示」と題して、九月下旬から十二月にかけて下記のような三回の展示を行い、当館が従来から積極的に収集してきた東海道や三つの宿場に関係する資料の内、特に屏風・絵巻・浮世絵・双六などといった絵画類を中心に紹介いたします。

まず「PART1 屏風・絵巻に描かれた東海道」（九月二二日～一〇月一日）では、東海道を題材として描かれた屏風（東海道屏風）三双と、絵巻（東海道絵巻）約一〇点を展示します。江戸から京都にいたる東海道を一望のもとに全



体視する屏風と、右から左へと移動していくことにより道中を擬似体験する絵巻という表現形態の違いをお楽しみ下さい（なお、東海道絵巻については展示の都合上、神奈川県域を中心とした展示となります）。また、「PART2 東海道と保土ヶ谷宿」（一〇月二七日～十一月二五日）では、市域の三つの宿場の内、神奈川宿とともに慶長六年（一六〇一）に成立した保土ヶ谷宿を取り上げ（戸塚宿は慶長九年「一六〇四」の成立です）、「東海道と保土ヶ谷宿」と題して、保土ヶ谷宿を題材とする浮世絵類約三〇点を展示いたします。保土ヶ谷宿という一つの宿場を対象としても、帷子橋・境木・権太坂といったさまざまな場面の選択や人物を対象としたものなど多様な題材が扱われている点は興味深いものと思われます。この他、五十三次揃いの浮世絵や各地の名所図会類なども展示します。最後に「PART3 東海道双六の世界」（十二月四日～二三日）では、東海道五十三次を舞台とする東海道双六約二〇点を紹介します。



東海道屏風



「戸塚宿紺屋友八西国旅日記」を読む

江戸時代の風雅な旅を追う

近世後期、とりわけ文化・文政期以降には庶民の旅が流行します。その結果、たとえば東海道の旅を題材とした文芸や絵画の作品が多く生まれ、旅文化は当時の庶民文化として広く定着しました。また意外に知られていませんが、旅人は多くの旅日記を残しています。その記載内容は質・量ともに一様ではありませんが、文芸作品などではうかがえない当時の旅のリアルな実態を後世に伝えてくれます。ここで紹介する「戸塚宿紺屋友八西国旅日記」（仮称）もそのような旅日記の一つです。

日記は、戸塚宿字天王宿（現戸塚町）在住の紺屋青木友八が、文政七年（一八

二四）の正月五日から四月九日までのほぼ三か月間、伊勢神宮や讃岐金比羅、京都など西国を中心に、さらには信濃善光寺や下野日光山等を廻った際の日記です（旅の行程は掲載図参照）。友八は文政七年当時六四歳、この旅は熟年の旅でした。日記は平成六年度に友八のご子孫から博物館に寄贈されました。館では、館主催の古文書講座のOB会組織「古文書を読む会」とともにほぼ三年をかけ解読を進め、今回、『横浜歴史博物館紀要』第五号の中で翻刻し、紹介することになりました。

日記は小さな和綴本で、分量は一八七頁に及びます。日記には彩色の挿画（主

に風景画）が一八あり、その絵画的価値は高いものがあります。友八は、紺屋を営むかわら、絵描きでもあり、挿画の質の高さは友八の画家としての技量を示しています。

旅の目的は伊勢神宮参詣でした。当時の伊勢神宮参詣は、旅人の経済力等の条件により、旅の行程に差がありました。たとえば関東の一般庶民は、伊勢講などを組み、代参者が伊勢と居住地を往復するのが普通で、行きは東海道、帰りは中仙道を通りました。経済的・時間的に余裕のある者は、西は讃岐金比羅や安芸の宮島、東は日光や出羽三山まで足を延ばす、今風にいえばデラックスタイプの旅をしました。友八一行の旅は、京都での二週間の滞在や讃岐金比羅・日光への訪問など、デラックスタイプに含まれるようです。

同行人は、戸塚宿の歌人たちでした。そのため、日記の記載は文化的要素が強いものとなっています。たとえば、友八は良い風景に関する興味が深く、記事に「此所二見ヶ浦之図ハ古今名筆二ありといへとも、今筆取て図之」（二見浦）等とあり、友八はそのいくつかを描いています。風景だけでなく神社仏閣に残る絵画への関心もあり、神社仏閣の絵馬舎・絵馬堂を訪れば、詳細に絵馬の題材と筆者を記しています。また歌人としての一行には、古歌の「名所」を探るといって本来の志向が強く、西国各地の「名所」



「戸塚宿紺屋友八西国旅日記」行程図

を訪れ、古歌を記しています。歌碑類の記事も見られ、とりわけ芭蕉への憧憬が、芭蕉碑の記事は碑自体のスケッチも含め多くなっています。以上の記事から、一行の旅は、戸塚趣味人の風雅を求めるサークル旅行であつたことがうかがえます。逆に通俗的な記述が少ない点もこの日記の特徴といえます。

今年は東海道開通四〇〇年の年でもあり、多くの方にこの日記を読んでいただき、江戸時代の風雅な旅を追体験してもらえればと思います。なお、日記の内容は、一〇月二七日～十一月二五日に開催する「東海道と保土ヶ谷宿」展でその一端を紹介いたします。

＊『横浜歴史博物館紀要』第五号は、定価一、〇〇〇円、ミュージアムショップで販売。購入問い合わせ先は、博物館総務企画課まで。
(井上 攻)



京都嵐山（京都府）



久能山（静岡県）

古代の道と横浜市域

古代の律令国家は、全国を畿内（大和・山城・摂津・河内・和泉の五国）と東海道・東山道・北陸道・山陽道・山陰道・南海道・西海道の七道に区分しました。七道は大きな行政区画であるとともに、都を中心として、各国々を結ぶ官道としても整備されてきました。官道、特に駅路は、可能なかぎり直線的につくられ、道幅は一二メートルで両側には側溝が設けられていたことが、各地の発掘調査によって明らかになっています。官道の交通体系の中心となったのは駅馬（えきうま）と伝馬（でんば）からなる駅伝制でした。駅馬は七道（駅路）を中心に約一六キロメートルごとに一駅が設けられ、公的な使者が乗用する駅馬が大路には二〇正、中路には一〇正、小路には五正設置され、それを持ち継いでいったのです。駅には駅長が置かれ、そのもとで駅戸（えきこ）が馬の飼育や様々な駅の事務に従事していました。一方、伝馬は各郡家に五正ずつ設置され、国府と郡家、郡家と郡家を結ぶ道、伝路において活用されました。

横浜地域の大部分は武蔵国にふくまれていましたが、武蔵国は律令国家が成立した当初、東山道に属していました。この段階での都（平城京）から武蔵国の役所である国府（現在の府中市）へむかう駅路は、上野国邑楽郡（現在の群馬県邑

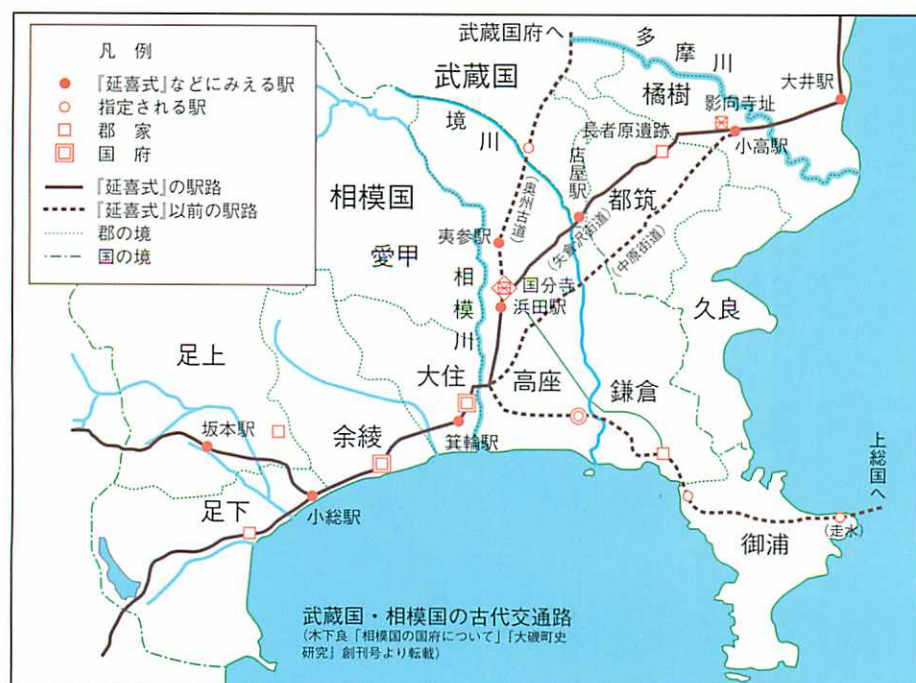
「上」・「下」は都からの近・遠によつて付けられましたが、上総国が房総半島の南、下総国が北に位置しているのは東海道の道筋に規定されたためです。

しかし、上野国から南下するルートよりも、東海道から武蔵国府を経由して下総国へ向かう連絡路の方が便利であり、頻繁に利用されていたので、宝亀二年（七七二）に武蔵国は東海道に所屬替えになりました。この連絡路は座間市にあつたと推定される夷参駅を経由して国府に至り、国府から東へ向かい、乗漕駅・豊島駅を経由して下総国の井上駅に向かうというルートでした。また、『万葉集』にみえる武蔵国の防人の歌には、足柄峠を詠み込んだものがあり、八世紀には防人も東海道ルートを利用していたことがわかります。

この連絡路ルートの他に注目されるのは、直線的に通る中原街道です。江戸と平塚市に置かれた中原御殿を最短距離で

結ぶこの街道は、江戸とも呼ばれ、鎌倉時代からこの道を通つて池上ことが知られます。それから、古代において、中武蔵へかけての官道として機能していたのではないかとみられます。

一〇世紀に成立した規則集である『延喜式』に定められた東海道ルートは、みづのわ箕輪・浜田・はまた店屋・小高・大井・豊島駅を通過するものです。駅の推定地から、これは矢倉沢街道に沿った路線であつたと考えられます。この沿線には武蔵国都筑郡家（青葉区荏田、長者原遺跡）、橘樹郡家（川崎市野川、千年山遺跡）などが存在しており、八世紀には東海道の駅路ではなく武蔵国内の伝路として機能していたと考えられます。平安時代のはじめには、



全国的な交通路の改変が行われており、その結果『延喜式』の路線が古代の東海道のルートとなったのです。

（平野卓治）

中世の道と横浜市域

横浜市域は中世都市鎌倉の後背地であったこともあり、関東各地から鎌倉へ向かう主要街道である鎌倉道が通っていた。一般に上の道、中の道、下の道と呼ばれた三本がそれです。

道は鎌倉道に限らず人々の交通、物資の輸送、また戦いの時の軍勢の移動など様々な用途に活用されてきました。その一方で、川の道や海の道も重要な交通手段で、これらが交差する場所には宿や市場など、人々や物資が集まる場所が形成されました。

中世の領主達は、こうした場所を押さえることを重要視し、支配拠点である城を古道の交わるような交通の要衝に構えたのです。つまり城のあるところには古道が通っているという考え方も成り立つのです。ですから、逆に古道のルートを探すには中世の城の分布を探ってみることもまた一つの手掛かりとなるのです。

少し乱暴ですが、市域の城を時代分けせずに落としてみたのが下の図です。その分布の上に道を引いてみました。鎌倉道と呼ばれる古道と何となく重なっているように思えます。

では次に、あまり細かく述べる余裕はありませんが、市域北部鶴見川流域を例として具体的にみてみます。

に北から鎌倉に向かう鎌倉道の中の道と下の道が交差しています。この地域の城の分布をみると、鶴見川が恩田川と谷本川に分かれる佐江戸周辺に集中している箇所があります。ここには佐江戸城・川和城・榎下城などがあります。この佐江戸周辺は、鎌倉道の中の道が北から達しており、さらには中世湊である神奈川湊から南多摩に達する古道も通っています。また鶴見川自体も重要な交通手段ですから、古道と川という中世を代表する交通路が交差する北部地域の要衝なので

す。

この地を押さえる佐江戸城は、鶴見川の氾濫原で舌状になった台地の先端に位置し、鶴見川・中の道・神奈川湊からの古道をまさに見下ろす場所にあります。榎下城も鶴見川南岸にあり、佐江戸で分かれた恩田川と古道を押さえる立地となつています。また佐江戸から多摩川へ向かう途中に茅ヶ崎城があります。これも鶴見川本流が綱島（港北区）で分かれた早瀬川を前面にして、東には古道が通る絶好の立地といえます。

同じような例として、荏田城（青葉区）があります。荏田は現在でも東名高速道路と国道246号線の交差する地点となつていますが、その脇の小高い丘に小規模な山城があります。城跡の東側には茅

ヶ崎・神奈川に至る古道が、南側には厚木に至る古道が東北から西南に走り、二本の古道は城の東側で交差しています。また、城跡の西方一・五キロメートルには鶴見川の支流谷本川が流れ、それに沿って佐江戸から南多摩に至る脇道が南北に走っています。この立地からは、やはり古道と川を押さえることを目的に成立した城であったことが分かります。

城には造られた目的があり、必ずしもどこかどこかをつなぐ古道が近くを通っているとは限りません。しかし、城と古道の関わりは今述べてきた通りなので

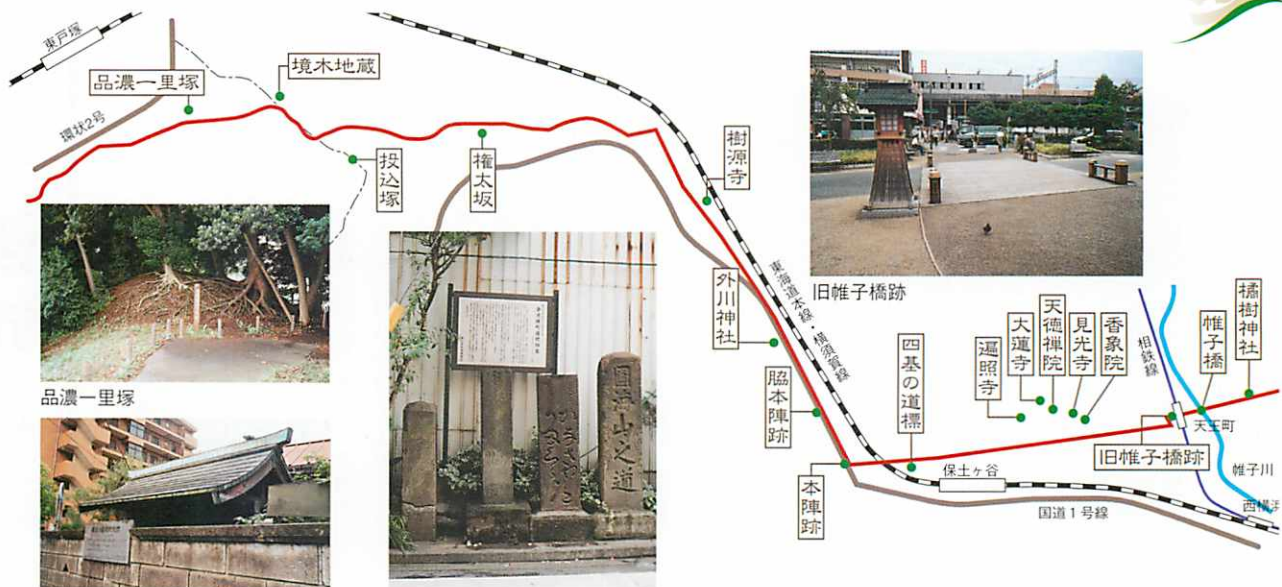


す。

●旧保土ヶ谷宿周辺

保土ヶ谷宿は、市域にある東海道の三宿場の一つで、神奈川宿と戸塚宿の間に位置します。江戸方面の神奈川宿へは一里九町（五キロ）と短く、上方方面の戸塚宿へは二里九町（九キロ）、今回紹介する散歩は、保土ヶ谷宿から戸塚宿に向かうルートです。出発点は相鉄線の天王町駅前公園で、終着点はJR横須賀線の東戸塚駅、この間は約八・五キロあり、健脚向けのコースです。

駅前公園は江戸時代、帷子川が流れ帷子橋が架かっていた場所、広重の浮世絵で良く知られています。現在、帷子川は駅の反対側を流れ、橋も移動しています。駅構内を通る旧東海道を神奈川宿側に戻り、帷子川を渡ると橋樹神社、もう少し行くと江戸方見附があった通りです。この見附から外川神社近くの上方見附の間が保土ヶ谷宿内となります。ここから駅前公園に戻り、駅横の道をまっすぐ西に向かいます。道幅は広いですが、この道が旧東海道です。道の北側に平行して横道があり、この道沿に香象院、見光寺、天徳禅院、大蓮寺、遍照寺などが並び、往時の寺町の雰囲気を残しています。駅横の道を進



品濃一里塚



本陣跡



四基の道標

むと、道は二股に分かれ、まっすぐ先の狭い道に入ると、この道幅がほぼ当時の

東海道です。右側の高札場跡を過ぎ、左の小さな横道に入るところに四基の道標があります。ここが東海道と金沢道との分岐点です。さらに道を進み、JRの線路を越えると国道一号につきあたります。ここを右に折れ国道一号を直進する道筋が旧東海道で、この右折により旧保土ヶ谷宿はほぼL字形の構造をしていたことがわかります。

国道一号を渡り、すぐのところには大名などが泊まった本陣跡があります。さらに進み脇本陣跡、そして外川神社となります。外川神社の道を隔てた反対側に一里塚、上方見附があったとされ、ここあたりが保土ヶ谷宿の西端となります。その先で国道一号を離れ、右に進み、樹源寺を通過、つきあたりを左折します。そして右側の細い道を入ると、いよいよ難所の権太坂です。権太坂の近くには行き倒れの旅人が投げ捨てられたとの伝説が残る投込塚があり、難所の雰囲気を感じていきます。息を切らせながら坂をのぼりきると境木地蔵、「境木」は武蔵と相模の国境との由来の地名です。焼餅坂をくだり進むと「ニューシティ東戸塚」の町並みが右側に見え、ほどなく品濃一里塚に着きます。

この一里塚はほぼ原型をとどめる遺構で、現在公園として整備されています。ここを過ぎ、旧東海道を右に折れ、環状二号を渡橋し、まっすぐ進むと終着点JR東戸塚駅に着きます。

常設展示室探検

もくどう 木道

原始1の展示室「縄文時代の人と物の流れ」のコーナーには、クヌギの木でできた杭のような木材が展示してあります。これは都筑区牛久保東の古梅谷遺跡から発見された、「木道」と呼ばれる施設の部材です。

この通路は、枕木のように敷いた木材の上に、長い渡り木を渡したもので、細い杭を打って枕木と渡り木をとめてあります。



発掘調査中の木道

木道は、台地の上にある西ノ谷貝塚から南に下った谷の中で発見されました。出土した土器から、縄文時代後期のもと考えられています。つまり、西ノ谷貝塚に住んでいた人たちが、谷を渡って他のムラや森へ行くために歩いた通路だったのです。

縄文時代の人々はいろいろなものを携えてこの道を通ったことでしょう。遺跡に残されたこのような資料からも、当時の人々の横顔がうかがいあがってくるようですね。

大塚遺跡出土土器

今から二〇〇〇年前、当時ほとんど人の住んでいなかった横浜地域に、稲作農耕技術をもつ人々がやってきました。博物館に隣接する大塚・蔵勝土遺跡公園は、その当時の人々が暮らした「環濠集落」という形のムラと「方形周溝墓」というお墓の遺跡を保存・復原したもので、遺跡そのものは国指定史跡となっています。

当館では発掘調査によってみつかった大塚遺跡出土の弥生時代の資料をすべて収蔵しています。

今からおよそ三〇〇年前、港北ニュータウン造成に先立って行われた埋蔵文化財の調査によって、早瀬川を挟む南北の造成範囲から二六八もの遺跡が発見されました。大塚遺跡もそのひとつです。遺跡の発掘調査は港北ニュータウン埋蔵文化財調査団によって一九七二年から一九七六年までの間と一九八三年に行われ、縄文時代、弥生時代の資料を中心として、多数の土器や石器が出土しました。その後、調査団とその後身にあたる横浜埋蔵文化財センター（現・財団法人横浜埋蔵文化財センター）（現・財団法人横浜埋蔵文化財センター）で息の長い整理作業が続けられ、二巻の調査報告書が作成されました。現在収蔵

している資料は、調査報告を終えたもので、当時の整理箱にして八〇〇箱にも及ぶ膨大な量となっています。

写真は、大塚遺跡の中心的な時期である弥生時代中期後半に南関東地方で使われていた土器で、宮ノ台式土器と呼ばれるものです。大塚遺跡をはじめとして、

鶴見川・早瀬川流域には宮ノ台式土器を伴う環濠集落がこれまでに十三か所ほどみつかっており、遺跡の集中度の高いことが知られています。それらの環濠集落が相互に関係をもち、環濠をもたない集落をふくめた地域的なまとまりをもっていることや、その頂点に大型の環濠集落である折本西原遺跡（都筑区折本町）があり、地域の核となっていること、また、こうした調査の成果が弥生時代研究全般に大きな役割を果たしてきたことなどについては、今年夏に開催した特別展「甕の大環濠集落」



で触れたところです。

土器の形や文様が似ていることから、鶴見川流域にいた人々は、相模湾岸の西部あるいは静岡県東部との関係が深かったものと推定されています。稲作という新しい生活手段とともに、農地を求めて移動してきた人々の目に、この横浜地域の姿はどのように映ったのでしょうか。大塚遺跡出土の土器は横浜の弥生時代を語るために欠くことのできないものであり、当時の人々の生活の姿を考えるうえでも、非常に重要な資料なのです。

ちよいと

ミュージアムショップたいむ Museum Shop Time

おのおの方、耳の穴かっぱじって、よく聞かれよ。東海道宿駅制度四〇〇年記念ということで、ミュージアムショップからお得な知らせがござるぞ。



このたび、企画展のポスターを特別に販売することにした。人気の浮世絵作家、初代広重筆「五十三次名所図会程ヶ谷」を使用したB2縦版ポスター（300円）と、「東海道三拾三次之内保土ヶ谷」を使用したB3横版ポスター（200円）でござる。それぞれ100枚限りの販売につき、お入り用の方は、お早めにお求めください。なくなり次第、御免。



当館オリジナルの東海道絵巻書をプレゼントいたします。9月22日から12月23日まで、東海道を題材としたすぐろく「東海道・木曾路新版振分道中雙六」、神奈川宿の浮世絵がおしゃれな「浮世絵Tシャツ」、「東海道テレホンカード」、以上の内いずれかをお買い上げの御方が対象でござる。この機会にぜひお求めください。



そのほかにももちろん、関連の書籍、絵はがき等も販売いたします所存。ご来店心よりお待ちしております。

ミュージアムショップ宣伝奉行

未宇治 編之進

INFORMATION

今後の企画展のお知らせ

◇東海道宿駅制度400年記念展示

part 1 屏風・絵巻に描かれた東海道

9月22日(土)～10月14日(日)

part 2 東海道と保土ヶ谷宿 10月27日(土)～11月25日(日)

part 3 東海道双六の世界 12月4日(火)～12月23日(日)

◇平成13年度横浜市新指定文化財展 12月4日(火)～12月23日(日)
横浜市では、市内に遺された貴重な文化財の保存・活用のため、文化財の指定・登録を行っています。本展では、今年度新しく指定・登録された文化財を紹介する予定です。

◇企画展「中世の棟札―神と仏と人々の信仰―」

1月26日(土)～3月3日(日)

建造物の棟上げの際、工事の由緒、施主・工匠の名、建立の年月日等を記して、棟木に打ちつけた板を棟札といいます。そこに記された銘文からは、文献史料のみでは語りきれなかった地域の歴史や、建立に関わった人々の信仰の様相までも読みとることができます。国宝や重要文化財である寺社の棟札をはじめ、各地の中世棟札に視点をすえ、中世に生きた人々の信仰と地域の歴史を探ります。

?????? 知ってますか??????

東海道関係ビデオ

博物館の常設展示室には、300タイトルあまりのビデオを見ることができる映像コーナーがあります。その中には、当館がオリジナル制作した東海道関係のビデオがいくつかあります。



『東海道と横浜』は1994年の制作です。

東海道と神奈川・保土ヶ谷・戸塚の三宿を、浮世絵と実際の場所とを対比しながら紹介したもので、江戸時代の名残を知ることができます。『描かれた東海道と横浜の宿場』は今年制作した最新作で、絵地図や浮世絵などの絵画資料からうかがえる東海道の世界を紹介しています。これらはいずれも15分ほどの番組となっています。

2～3分ほどで横浜市内にある文化財を紹介する文化財ビデオにも、東海道にかかわる番組があります。市場一里塚(鶴見区)、神奈川の大井戸(神奈川区)、旧帷子橋跡(保土ヶ谷区)、金沢横町道標(保土ヶ谷区)、境木地蔵(保土ヶ谷区)、品濃一里塚(戸塚区)、東海道戸塚宿見付跡(戸塚区)などで、文化財を取り巻く歴史やエピソードなどがわかります。

みなさんもこれらのビデオを見たあと現地へ行き、かつての東海道の姿を思い起こしてはいかがでしょうか。

2001年4月1日～2001年9月30日

- 4月8日 特別展開連講演会 鈴木靖民「ヤマト王権の成立と展開」
- 4月21・22日 体験学習「小田原提灯づくり」
- 4月22日 特別展開連講演会 河上邦彦「オオヤマトの古墳と王権」
- 5月6日 「古墳からのメッセージⅡ 大古墳展 ヤマト王権と古墳の鏡」終了
- 5月12日 「第5回私たちが作った縄文土器展」開催(6月10日まで)
- 5月15日 歴史講座「横浜の歴史」(7月17日から連続10回)
- 5月24日 <ふるさと横浜探検1>国指定史跡大塚遺跡と特別史跡登呂遺跡の探訪
- 5月26・27日 体験学習「まがたまづくり」
- 6月23・24日 体験学習「ぞうり編み」
- 7月20日 大塚・歳勝土遺跡公園開園5周年記念特別展「甦る大環濠集落―古野ヶ里から大塚まで―」開催(9月2日まで)
- 東海道ルネッサンス スタンプラリー(12月24日まで)
- 7月25日 体験学習「かざぐるまづくり」
- 7月26日 <ふるさと横浜探検2>寺家の谷戸
- 8月1・2日 体験学習「そめもの」
- 8月5日 特別展開連講演会 石神 怡「大環濠集落・池上曾根遺跡が語る近畿の弥生時代」
- 8月8・9日 体験学習「土偶づくり」
- 8月10日 体験学習「まゆ細工」
- 8月11・12・18・19日 夏休みみえし教室
- 8月24・25日 体験学習「まがたまづくり」
- 8月26日 特別展開連講演会 小宮恒雄「大塚・歳勝土遺跡と横浜の弥生時代」
- 9月7日 防災訓練
- 9月22日 東海道宿駅制度400年記念展示part 1「屏風・絵巻に描かれた東海道」開催(10月14日まで)
- 東海道ルネッサンス クイズラリー(11月25日まで)
- 9月23・24日 古代人まるごと体験講座・古代米ひとくち体験
- 9月27日 <ふるさと横浜探検3>よこはま事はじめ―山手地区

横浜市歴史博物館 日誌

横浜市歴史博物館および大塚・歳勝土遺跡公園の利用案内

編集後記

東海道宿駅制度四〇〇年記念特集号をお届けします。縄文時代の木道から、古代、中世、近世とさまざまな道について紹介してみました。いかがでしょうか。記念展示は、12月まで、パトナーからパトナー3まで3回開催します。ぜひ、ご来館下さい。

●開館時間

午前9時から午後5時まで(ただし、入館は午後4時30分まで)

大塚遺跡、都筑民家園を除く公園部分は24時間オープン

●休館日

月曜日、祝日の翌日、年末年始

そのほか展示替えなどのため、臨時に休館することがあります。

●常設展観覧料

区分	個人	団体 (20人以上1人につき)
一般	400円	320円
高校生・大学生	200円	160円
小学生・中学生	100円	80円

◆特別展・企画展の観覧料は、別に定めます。

◆第2・第4土曜日は、小・中・高校生は無料です。

◆「長寿のしおり」「敬老特別乗車証」「愛の手帳(療育手帳)」「身体障害者手帳」「障害者手帳」をお持ちの方は無料です。

●交通案内図

横浜市営地下鉄「センター北駅」下車徒歩5分
(「センター北駅」へは横浜駅から23分 新横浜駅から12分)



駐車場あり(2時間400円)

●インターネットホームページ

<http://www.rekihaku.city.yokohama.jp/>

